

The TENDAI journal

発行所：天台宗出版室
発行人：出版室長 小林 祖承
〒520-0113 大津市坂本4-6-2
天台宗務庁内 電話：077-579-0022(代)
Eメール：T-Press@tendai.or.jp

令和3(2021)年12月1日 水曜日
(毎月1日発行) 1部50円(消費税込・送料別)

天台ジャーナル



第二五八世天台座主に大樹探題がご上任

新師表を迎え宗内一丸で

森川宏映第二五十七世天台座主猊下のご遷化に伴い、11月22日、大樹孝啓探題大僧正(兵庫教区書寫山圓教寺住職)が第二五十八世天台座主に上任された。大樹新座主は大正13年6月23日生まれの97歳。平成28年からは一隅を照らす運動会長に就任され「在家の菩薩を一人でも多く増やしていきたい」と、先頭に立って衆生教化に勤しまれてきた。

大樹新天台座主猊下は、兵庫県姫路市出身。大正大卒。戦後は昭和40年3月まで小学校教諭として奉職された。昭和18年に書寫山仙岳院で得度され、同20年に法界寺住職就任。同37年に仙岳院住職、教諭退職後に圓教寺職員へ。同55年に執事長に就任されるが、それまでに教区主事や教務補佐、教区宗務副所長を歴

任されている。昭和59年から圓教寺住職に上任され第140世長吏の法燈を継がれた。平成8年から12年まで天台宗審理局局長。同11年に戸津説法を勤仕され、同22年に探題補任。同27年から次席探題となられ、森川座主猊下を補佐されてきた。

し全国各教区で営まれた特別授戒会では、各地で伝戒和上をお勤めされてきた。いつも優しいお言葉で、伝教大師の「忘己利他」「一隅を照らす」の教えを説かれ、多くの檀信徒らと仏縁を結ばれている。一隅を照らす運動会長に就任されたときに、こう述べられている。

「最澄様は浄仏国土を目指された。そのためには在家の菩薩を一人でも二人でも増やさなければなりません。菩薩を作るためには『布施 持戒 忍辱 精進 禪定 智慧』の六行の実践が必要ですよ。また多発する自然災害にも「地球の怒りは神仏の御忠告と受け止めるべきだ」と述べられ、自然へ感謝を示し、日々の暮らしには菩薩の心をもって過ごす大切さを説かれていた。



今年6月5日に奉修された伝教大師一千二百年大遠忌御祥当後法要(胎蔵界曼荼羅供)で大阿闍梨を勤められ、宗祖伝教大師のご宝前に報恩謝徳の誠を捧げられた。祖師先徳鑽仰大法会も1年延期され、来年は九州と京都の各国立博物館で特別展が開



滋賀院門跡で11月22日、午後3時から上任式が営まれた。天台宗と延暦寺の両内局が見守る中、阿部昌宏天台宗宗務総長から梶井袈裟が贈呈された。大樹新座主猊下は「伝教大師のみに心えられるよう努力してまいります」と就任への決意を述べられた。

極微

コロナ禍の収束がいつになるのか予測がつかない。日本だけのことではなく、世界的に見ても、残念ながらそう結論づけざるを得ない。感染が収まる方向に向かっているように見える国々も、それが確実ともいえないのだ。何しろ、すべてが未知の状況下での対応であるため、今後もどうなっていくのか見当がつかない▼このコロナ禍は、世界的に問題となっている「貧困格差」の現状をも露呈させた。富める国はワクチンをしつかりと確保し、貧しい国は手が届かないという現実がある。そのため国際的な組織などから、貧しい国にワクチンを融通するように要請がだされている。経済格差による対応不足が如実に表れるのは医療体制である。貧しい国々では、新型コロナウイルスの感染拡大に至る前から、日常的にみても、満足できる医療体制などは望むべくもなかった。そんな医療環境の中、新型コロナウイルスに襲われたのだから、予防や治療の措置などとても手が回らなかつた▼自国での感染拡大が縮小し、ある程度収束への道筋が見えてきたら、感染対策の遅れてきた国々へ、なんとか持続的な援助ができないものかと思う。この新型コロナウイルスは、まだまだ変異してくる可能性は大であり、たとえ自国だけ感染拡大を押しさえ込んで、依然として感染の脅威が続くのは必至なのだから。